

■□ 開会挨拶

若林 靖永（くらしと協同の研究所 理事長）



くらしと協同の研究所の理事長を務めています若林靖永でございます。

今日はこのように対面で総会記念シンポジウムが迎えられること、とてもうれしく思っています。思い返せば3年間ほど、コロナの中、感染予防措置をとりながら、あるいは主にオンラインということで、ここ数年はくらしと協同の研究所の総会記念シンポジウムを開いてまいりました。くらしと協同の研究所の今年創立30周年を迎えますが、この長い歴史の中でやはり毎年実施している総会記念シンポジウム、これこそがくらしと協同の研究所が1年間さまざまな研究や調査の議論を進め、そしてその時々の問題について、社会に対してあるいは生協等、関係者の皆さんに対して問題提起をして、共に暮らしの問題やあるいは協同をめぐる活動や事業についてとか、あるいはそれに関わる研究に取り組んでいる人たちの皆さんが、共に集まって学び議論して、そしてまた1年頑張っていこうという特別な場で行っていました。そういう位置づけでこの総会記念シンポジウムは毎年大事にされ進められてきていました。今回、ようやくにしてこのように皆さんと一緒に集まって学びあう機会を設けることができ、とてもうれしく思っています。

今回のテーマは「現代社会における食の価値を考えるー生活協同組合だからこそできる価値の伝え方、活かし方とはー」というものです。この食をめぐる問題は、まず生活協同組合の観点から見れば決定的に重要です。もともと食品添加物の問題など、

子どもに、あるいは自分たちが安全で安心できる食生活というものを送れるようにするというような強い基本的な要求に基づいて、日本の生活協同組合というのは大きく日本全国に拡大、展開していきました。その流れの中で、CO・OP商品や生協産直など、産地とつながった活動・事業が展開されてきました。そういう意味では、この食をめぐる問題について考えるということは、生活協同組合の中心的事業のテーマであるとともに、また組合員にとって最も基本的な願い、要求のポイントだろうと思います。

同時に今回採り上げる観点は、この食をめぐる問題が、どんどん時代とともに変わってきているということです。あまり危機という言葉を使うのはどうかとは思いますが、やはり食料の問題も危機的な状況というものをさまざまな観点から言われています。地球温暖化による影響により、世界的に見てもさまざまな食料あるいは水の困難も言われておりますし、近年のこのウクライナの戦争によって、やはり国際的な需給の関係でさまざまな食料物資の値上げということで、世界的に困窮が増えています。小麦の値上げっていうのは、小麦はほんとに世界中で基本的な生活を支える食料ですので、大きくそれぞれの国の貧困といえますか、困難につながっています。また、酪農の問題を『くらしと協同』の最新号では採り上げておりますけれども、やはり飼料や燃料の価格の上昇が農業や漁業に取り組んでいる皆さんのさまざまなコスト増につ

ながら、経営困難をもたらしています。

このように近年、食をめぐる問題についてはやはりもっと視野を広げて学んでいくということが大事になってきているように思います。そういう中で消費者が学ぶ、消費者がただ買うという存在ではなくて、今の食料あるいは農業生産、農業流通の状況を学び理解を深めながら自分たちがどう関わっていくのかという主体的な関わりということがますます求められるだろうと思います。今日の総会記念シンポジウムでは、食の問題について大きな点で学ぶとともに、各地域でどのように食の価値について伝えるか、知って、そして消費者がともに行動するという取組がどう広がっているか、ともに学んで考えていけたらと思います。

また明日につきましては、二つの分科会が予定されておりますが、これらは全て、リモート開催で行われる予定にしております。こんなふうに今後も対面とオンラインをうまく組み合わせて、多くの方々が学び参加できる場として、議論できて一緒に考えあう場として総会記念シンポジウムを進めてまいりたいと思っております。

それでは2日間、しっかり学んで議論したいと思います。よろしくお願いいたします。



若林理事長挨拶風景